

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年12月4日

【評価実施概要】

事業所番号	3650180015
法人名	社会福祉法人 愛心会
事業所名	グループホーム たんぽぽ
所在地	徳島県徳島市西新浜町2丁目3-33 (電話) 088-663-8811

評価機関名	徳島県社会福祉協議会
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地
訪問調査日	平成20年12月4日

【情報提供票より】(平成 20 年 10 月 31 日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 13 年 6 月 5 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	14 人	常勤 10人, 非常勤 4人, 常勤換算 ユニット1 6.7人, ユニット2 6.2人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り	
	6 階建ての	2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	23,500 円	その他の経費(月額)	光熱水費6,000円、その他実費	
敷金	有(円)	(無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	400 円	昼食	400 円
	夕食	400 円	おやつ	— 円
	または1日当たり		— 円	

(4) 利用者の概要(10 月 31 日現在)

利用者人数	18 名	男性	4 名	女性	14 名
要介護1	6 名	要介護2	7 名		
要介護3	3 名	要介護4	2 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 86.85 歳	最低	78 歳	最高	93 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	ロイヤル病院、四国セント歯科
---------	----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

事業所は2階にあり、テラスには草花や外気にふれるスペースが確保されている。また交通の便もよく、徒歩圏内に大型ショッピングセンターがあり生活環境に恵まれている。母体法人は福祉と介護、医療、保健など幅広いネットワークを持ち、地域に根ざした運営を心がけ、事業所のサービスの質の向上にも積極的に取り組んでいる。管理者は併設する在宅・施設サービスとの協体制度を活かし、生活の継続性を重視した支援に取り組んでいる。

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回評価での課題であった「運営推進会議を活かした取り組み」の会議の開催頻度は、平成20年度から2か月ごとに行い、改善している。「入浴を楽しむことができる支援」については、自由な入浴時間を設定し、改善している。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価は管理者と一部の職員で行っている。外部評価の結果については全職員に周知し、計画的に改善している。また評価を通して地域密着型サービスとしての事業所の役割についての理解を深めていこうという姿勢が見られる。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は2か月に1回開催し、利用者や家族、地域住民、老人会会長、地域包括支援センター職員などが参加している。会議では、活動状況や評価結果などを報告したり、事業所の取り組みについて意見交換し、運営に反映するなどしてサービスの質の向上に活かしている。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>毎月「たんぽぽ便り」を郵送し、利用者の暮らしぶりなどを家族に報告している。また面会時や年2回の家族会などで意見や要望を聞き、前向きに検討して運営に反映させている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>事業所が主催して地域の夏祭りを開催したり、地域の美術展に利用者の作品を出展するなどしている。また老人会会員や小学生の定期的な来訪があったり、職場体験を受け入れるなどして地域との連携を図っている。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「その人らしさを大切に、住み慣れた地域で、安心と尊厳が守られるよう支援します。」といった生活の継続性・連続性を重視した理念を作成している。		
	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は玄関やスタッフルーム、机など目につくところに掲示して意識付けを図っている。管理者と職員は常に理念を確認しあい、具体的なケアについて意思の統一を図っている。		
2. 地域との支えあい					
	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	事業所が主催して地域の夏祭りを開催したり、地域文化行事の一環である美術展に利用者の作品を出展するなどしている。また老人会会員や小学生の定期的な来訪があったり、職場体験を受け入れるなどして地域との連携を図っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価の結果については全職員に周知し、順次改善している。また評価を通して地域密着型サービスとしての事業所の役割についての理解を深めていこうという姿勢が見られる。しかし、自己評価は管理者と一部の職員のみで行われている。	○	評価は計画的・継続的に行い、サービスの質の向上に活かすため、研修や勉強会などで全職員で取り組むことが望まれる。
	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2か月に1回開催し、利用者や家族、地域住民、老人会会長、地域包括支援センター職員などが参加している。会議では、活動状況や評価結果などを報告したり、事業所の取り組みについて意見交換している。出た意見を運営に反映させるなどサービスの質の向上に活かしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	事業所は市担当者に報告や相談を行い、連携しながらサービスの質の向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月「たんぽぽ便り」を郵送し、利用者の暮らしぶりなどを家族に報告している。また金銭の出納状況は面会時に確認してもらっている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族とは面会時や年2回の家族会などで直接話し合って意見や要望を聞き、前向きに検討して運営に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	馴染みの関係による支援が継続できるよう職員の異動は最小限にとどめ、利用者への影響を防いでいる。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修は法人内部での年間計画をもとに実施している。外部の研修も計画を立て、認知症実践者研修やリーダー研修などへ順次参加している。しかし、研修内容の報告や他の職員に伝達する仕組みが確立されていない。	○	職員の質の向上や情報・知識の周知のためにも、報告書を回覧して確認印・サインをするなど、研修内容が全職員に伝わる工夫が望まれる。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修に参加した機会を通して情報交換などに努めている。また地域の同業者とは相互訪問するなどして交流し、共にサービスの質の向上に取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	事前に利用者と家族に事業所を見学してもらい、場の雰囲気などを知ってもらっている。また体験利用などを通して事業所や他の利用者、職員と馴染めるよう支援し、本人が安心して納得した上でサービスが開始できるよう配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者から干し柿の熟成時期や食事の下ごしらえの方法、生活の知恵を教えてもらうなど、お互いが協働し、共に支え合いながら生活する関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は利用者一人ひとりの希望や思いを聞き取り、実現できるよう努めている。思いを表せない利用者には言葉や表情、態度などから本人の意向にそえるよう取り組んでいる。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	日頃の関わりの中で、利用者の意向や家族の希望を聞き出し、独自の24時間アセスメントシートを活用するとともに医師など関係者の意見・指示をもとに計画を作成している。計画書には利用者・家族の確認印・サインがある。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は期間に応じて見直している。またモニタリングによる評価を行い、随時実情に合った計画を作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制を活かし、利用者の負担となる受診や入院の回避、早期退院の受け入れなどを行っている。また、短期利用型共同生活介護の受け入れもやっている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関に加えて、利用者や家族が希望するかかりつけ医への受診を支援し、適切な医療が受けられるよう配慮している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に重度化した場合や終末期のあり方について話し合い、医師などと共に個別の支援方針を共有している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	排泄介助時などの職員の言葉かけや対応については、プライバシーを損ねないよう配慮している。また個人情報についても書類などは適切に保管している。しかし、居室の扉の一部がガラス張りであるため室内の様子が誰でも見られるようになっている。	○	居室内のプライバシーを確保するためにも、フィルムを貼るなどの配慮が望まれる。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	これまでの生活スタイルやその日の体調に応じたペースを大切に、行事や家事への参加、趣味の時間等は利用者の希望に応じて支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎週献立ミーティングを実施し、利用者の希望を取り上げて献立を作成している。食事の準備などは利用者も参加できるよう支援している。また食事中は急かさず、利用者のペースで食べられるよう介助・見守りを行っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者一人ひとりが希望するときに入浴できるよう、また少なくとも週に3回は入浴できるように支援している。さらに体調に応じて日や時間帯をずらすなどし、入浴を楽しめるよう配慮している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	絵や手芸などの創作活動や花の手入れ、食事準備などの場面設定を行い、さりげない言葉かけで参加できるよう支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	テラスでの外気浴や散歩、買い物など希望に応じた外出支援を行っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は利用者の行動に常に関心を払い見守りを行い、日中は鍵をかけないケアを実践している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署が立ち会い、年に2回、避難・消火訓練を行っている。また災害時のマニュアルを作成し、非常事態に対する備えも行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分摂取状況を毎日記録し、把握している。また献立は関連施設の栄養士の助言・指導を受け、利用者の摂取状況に応じた対応を行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は採光がよく、換気も行い、気になるにおいや不快な音はない。また様々な形のソファを配置し、居心地よく過ごせる空間となっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	衣装ケースや写真など、利用者の生活スタイルや趣味に応じたものを持ち込み、利用者一人ひとりの居心地のよさに配慮した居室づくりを支援している。		